平成 27 年度　東京外国語大学オープンアカデミー
東京外国語大学語学研究所 企画
『言葉とその周辺をきわめる -4- 』
2015 年 10 月 27 日（火）　第 4 回

「ハングル、その成立をさぐる」

東京外国語大学大学院准教授
趙 義成

みなさん、こんばんは。今日は第 4 回目です。この講座を担当いたします東京外国語大学の趙と申します。よろしくお願いいたします。名前は韓国人の名前ですが、生まれ育ちは日本ですので、みなさんと同じように普通に日本語を話します。今日の話は朝鮮語・韓国語を表記する文字、ハングルの誕生のお話を少ししようと思います。最近東京でも駅などでこのハングルの文字を普通に見ることができます。書籍などもハングルに関する書籍などが出ていますが、世に出回っている本、あるいはネットの情報などは往々にして誇張していたり嘘が多かったりすることがあります。ですから、今日はこの文字をみなさんと一緒にきちんと見ていこうと思います。

まず初めに、ハングルができる前の朝鮮半島の文字生活について見て、それからハングルの製字原理・製字思想を見る。そしてハングルの用いられ方を少し見て、ハングルの誕生に関わるいくつかの事柄について触れていきたいと思います。

最初に予備知識からです。朝鮮語を勉強している方はこのハングル文字に慣れ親しんでいると思いますが、朝鮮語を勉強したことない方はこの文字がどういう文字かご存じないと思いますので、そのお話から簡単にします。

ハングルとは朝鮮語を表記する文字の名称です。日本では言語の名称で使うことがままありますが、言語の名称ではなくあくまで文字の名称です。朝鮮語のことをハングル語ということがありますが、これは誤りです。日本語のことを仮名語と言わないのと同じように、朝鮮語のことをハングル語とは言いません。ちなみにこのハングルというのは、朝鮮語で大いなる文字という意味です。なお、私の話の中では朝鮮語とも韓国語とも言いますが、どちらの名称で呼ばれても同じものを指します。学界では一般に朝鮮語と呼ぶことが多いですね。日本では民族全体の呼称が「朝鮮」なので、言語名も朝鮮語です。私も朝鮮語と呼んでいきま

す。

ハングルは表音文字です。簡単にいうとアルファベットと同じで、字の個々のパーツが１つ１つの音を表す表音文字です。ハングルの例ですが、例えば「ㄴ」は [n] 音を表し、「ㅏ」は [a] 音を表します。この２つを組み合わせると「나」[na] という１文字ができあがります。同様にして、「ㅁ」[m] と「ㅜ」[u] を組み合わせて「무」[mu] ですね。他にも例えば、「ㅁ」[m]、「ㅏ」[a]、「ㄴ」[n] の３つを組み合わせて「만」 [man]もできます。このように、原理は非常に単純な文字です。ですからすぐに覚えることができる文字です。ハングル文字が表音文字だということが分かったところで話を本題の方に移していきます。

ハングル以前の文字生活です。朝鮮半島は漢字文化圏です。少なくとも紀元前２世紀には漢字文化を導入しています。最初は漢文による書記が行われていたでしょうけれども、朝鮮語は中国語と文法が全然違うので、中国語を書こうと思ったらやはりそれなりの勉強が必要です。それでは不便なので、漢字を借りて朝鮮語を表記するようになります。これを朝鮮語の世界では「借字表記法」と言います。日本も昔は同じような変遷をたどっていきましたね。日本には万葉仮名があります。それと同じような表記法が朝鮮半島にもありました。このような代表的な表記法があります。

借字表記法の１つに「吏読（りとう）」と呼ばれるものがあります。役人の行政文書などで使用されたものですね。朝鮮語の語順に従って文がつづられています。例えばこんな感じです。

吏読の例（養蚕経験撮要）
蚕陽物大悪水故食而不飲（漢文）
蚕<u>段</u>陽物<u>是乎等用良</u>水気<u>乙</u>厭却桑葉<u>叱分</u>喫破<u>為遣</u>飲水<u>不冬</u>
蚕 sdan 陽物 iondʌlssɨla 水気 il 厭却桑葉 sbun 喫破 hʌgo 飲水 andʌl
（蚕ハ陽物ナルヲモッテ水気ヲ厭却，桑葉ノミヲ喫破シテ飲水セズ）

上段が漢文で下線部が朝鮮語の部分、中段が吏読文です。下段のように読んでいただろうと思われます。それを訳したのが下の括弧の中です。このように朝鮮語を表記するのに全て漢字を使って表記していました。一見漢文のように見えますが、漢文ではありません。

その次は「郷札（きょうさつ）」と呼ばれるものです。朝鮮の古代詩歌である郷歌の表記に用いられました。ちょうど万葉仮名のようなものですね。当時の朝鮮語をおそらく完全に表記したものと考えられますが、歌の数が少ないのでまだ十分に解読がなされていません。例えば一つの例として次のようなものがあります。上段が郷札、全て漢字で書かれています。下段が推定した読みです。これもやはり朝鮮語の語順に従って書かれているものですね。最初の「東京」はおそらくそのまま漢字を発音したであろう固有名詞の部分、それ以降が朝鮮語の部分です。

郷札の例（処容歌）
東京　明期　月良　夜　入伊　遊行如可
東京　bʌlgi　dʌrai　bam dɨri　nolnidaga
（東京の明るき月に夜更けまで遊び回り）

そして「口訣（こうけつ）」と呼ばれるものがあります。これは漢文読解のための送り仮名のようなものです。カタカナに似た漢字の略体が用いられます。日本語のカタカナも元は漢文を読解するための送り仮名から始まり、最初は漢字を使っていたけれど、そのうち漢字を略してできあがります。例えば下のようなものですね。これは朝鮮の高麗時代のお経の一部ですが、小さい字で書かれている部分が口訣と呼ばれるものです。

釈読口訣の例（旧訳仁王経）
爾[ヒッ] 時[ナ] 仏[ㄱ] 告[ㄱニア] 大衆[ラナ]・
爾[叱為隱] 時[中] 仏[隱] 告[為示尸] 大衆[衣中]・
爾 shʌn 時 gii 仏 i 大衆 iigii 告 hʌsil
（爾ナル時ニ仏ハ大衆ノソコニ告ナサル）

カタカナのような、カタカナに似た字がいくつか見られます。上段が口訣文字、中段が口訣文字の元となった漢字です。下段が推定の読み方です。

ハングルができる前は漢字を用いてこのようにして朝鮮語を表記していました。おそらくかなり不便だったろうと思います。

そして、いよいよ 15 世紀半ばにハングル文字が作られます。李氏朝鮮第 4 代国王の世宗の時、ちょうど建国の混乱がおさまり政治的にも文化的にも安定、充実していた時代です。ハングルは世宗自らが作りました。文献などを見ると親制（世宗が自らが作った）と記されています。1443 年の 12 月に完成して、1446 年 9 月に本として世に出ます。集賢殿というアカデミーのようなところの学者に命じて、この文字の解説書を作らせます。その解説書が『訓民正音解例』という本です。略して「解例本」と言います。この解例本は本編と解例という部分からなっていて、本編は世宗が書いたもの、解例は臣下の学者が書いた解説部分です。これを読むと、文字を作った理由・原理や、正確な年代等々が詳しく書かれています。世界の文字のほとんどは大体自然発生的に生まれますが、いつ誰がどのようにして作ったかが事細かく記されているという点で、この文字は非常にユニークな文字であると言えます。解例本の原本の写真をスライドでお見せします。【スライド投影】韓国の国宝に指定されているものです。ちなみに、20 世紀に解例本の原本が発見されたとき、最初のページはありませんでした。これは復元されたものです。このページはよく図版などに紹介されますが、全くありがたみのない部分なんですね。後の部分からが本当の 15 世紀の本の部分ですが、前のページと見比べると紙の色や状態が全然違うのが分かります。

世宗が作ったこのハングルは、当時の人みんなが賛成していたわけではなくて、反対していた人が少なからずいたようです。その中の一人が崔万理という臣下で、ハングルに反対する上疏文を王に出します。ここを読むと、「漢字でない文字を作って用いるのは、李氏朝鮮の国是である至誠事大の精神に反する。民族文字を持つのは、未開人のすることであって、文明人がすることではない。」などと言っています。当時の朝鮮社会はこのような事大主義的な考え方が一般的だったわけです。ですから、このようなハングルに対する反対の意見は当時の社会としては当然のことだったのでしょうね。

それでは、このハングルという文字を見ていきましょう。その前に一旦プリントに目を通していきます。プリントの 3 ページの上の方に、今説明した解例本の構成が書かれています。本編と解例の部分から成っていて、本編は非常に短く、解例はいくつかの章に分かれていて、文字についての説明が詳しくなされています。これから第 3 章のハングルの製字原理と製字思想を見ていきます。それから同じページの 2.2 ハングル創製に反対する勢力がありますが、ここに今言った崔万理の文言を少し紹介しています。あとでご覧ください。

それでは3章「ハングルの製字原理と製字思想」に移ります。この文字は、当時の思想が色濃く反映されています。ハングル文字は子音字母とそれから母音字母の2つからなっています。字母とは字のパーツという意味です。

子音字母は発音器官を模式化しています。解例本を見ると、形をかたどってこの字を定めたと書かれています。ちなみにこの解例本は全て漢文で書かれています。子音字は全部で5つの基本となる文字があって、そこから他の字を体系的に作り出しています。その基本となる字が「ㄱ, ㄴ, ㅁ, ㅅ, ㅇ」という5つの字です。この子音字は、五行説という中国の思想に基づいて音を分析しています。

発音器官を模式化しているという話は、例えばこんな感じです。訓民正音解例を見ると、「ㄱ」[k] は「舌根喉を閉づるの形を象る (象舌根閉喉之形)」という記述があります。[k] 音を発音するときに舌の奥の方が上にくっつきますよね。ちょうどこの部分をかたどっているということになります。また「ㄴ」[n] は舌が上歯茎に付く形をかたどると書いてあります。[n] を発音すると、舌先が上の歯茎にくっつきますよね。このようにして、発音時の口の形を模式化して子音字ができているんですね。ですから 15 世紀の人は口の中の様子を正確に分析していたというのが分かります。このように5つの基本字を作り、その他の字は声の出が激しくなるに従って一画を加える「加画」の原理に従って字を作ります。例えば先ほどの「ㄴ」[n] の字に一画加えて、「ㄷ」[t] を作る。[t] の破裂を、当時の人は声の出が激しいと考えたんでしょうね。有気音は息を更にたくさん出すので一画を加え「ㅌ」[t^ha] ですね。4ページの表1をご覧になると、画を加えてできている様子が見て取れます。このようにして 15 世紀の朝鮮人は、言語音をどのようにして人間が出しているのかをきちんと分析して、把握していたことが分かります。

子音は五行説に基づいていることを先ほどお話しました。基本的な字を5つ作ったと言いましたが、5個というのがポイントです。五行説は、万物は木火土金水という5つの要素から成り立っていて、その相互関係によってこの世ができ上がっているという考え方です。それに従って5つの基本的な字を作って、そこから更に他の字を作ると考えているんですね。この五行によって音が分析されています。例えば喉音の場合、喉は深く潤っているので、五行で言うと水に属する音であり、喉音はうつろで透き通っているので、水が透き通っていて明るく流れるのに似ている。このように説明しています。季節で言えば冬、これは水が冷たい

ものだから、冷たい冬に属するということでしょうね。音階でいえば羽に当たる。このようにして、言語音と五行を結びつけて考えています。ちなみにこの五行の説明の他の部分は、プリントの 4 ページに書いてありますのでご覧になってください。

次は母音字です。母音字は 3 つの基本的な字をまず作ります。点（・）と横棒（ㅡ）と縦棒（ㅣ）という、非常に単純な字形ですね。これを組み合わせて他の母音字を作っていきます。思想としては、三才と陰陽説に基づいて母音を考えています。

まず母音字は、基本的な 3 つの字があり、点、横棒、縦棒を組み合わせて他の字を作っていきます。例えば、横棒と点を組み合わせたり、縦棒と点を組み合わせたり、更に点を一個加えたりして、新しい字を作っていきます。プリントの 5 ページの表をご覧になってみてください。「口蹙（口すぼまる）」、「口張（口はる）」や「舌縮（舌が縮まる）」、「舌小縮（舌が少し縮まる）」、「舌不縮（舌が縮まらない）」などという表現が当時の文献に出ていますね。このような記述も非常に興味深いです。「口張」は口を開くという意味です。だから「ㅏ」[a] 音は「口張」と書いてあります。それに対して「ㅗ」[o] は「口蹙」と書いてありますね。母音の発音を当時の人がきちんと観察しているのが分かります。

陰陽説は、この世の中は陰・陽の 2 つの気からなっているという考え方です。それに基づいてこの母音というのを考えています。先ほど 3 つの基本的な字を作ったと言いましたが、点は天を、横棒は地を、縦棒は人を表しています。天は陽に属し、地は陰に属します。このように陽・陰という概念で母音を分けています。陽に属する母音は「・」[ʌ], 「ㅏ」[a], 「ㅗ」[o] の 3 つ、陰に属する母音は「ㅡ」[ɨ], 「ㅓ」[ə], 「ㅜ」[u] の 3 つですね。実は古い朝鮮語では、1 つの単語の中に陽母音が現れたら、その単語の中では陽母音しか現れない。陰母音が現れたら陰母音しか現れないというように、1 単語内では陰母音だけ、あるいは陽母音だけしか現れない現象が一部にありました。この現象は現代の言語学で「母音調和」と言いますが、当時の朝鮮人がこの現象を非常に的確に分析して理解していたのが分かります。

ハングルは、このように思想的に陰陽説、五行説に基づいていますが、これらは大きく見ていくと朱子学という学問の中の一分野です。朱子学は儒学です。よく朝鮮は儒教の国だと言いますが、それは李氏朝鮮の国是が朱子学だったからです。それでこのハングルも朱子学の考え方に基づき、陰陽説、五行説という考え

方を使って作られました。それからもう一つ、当時の朝鮮人は言語音を詳しく分析していましたが、朝鮮人が学問的にゼロの状況から分析しているのではありません。中国音韻学の成果を最大限に活用して作っています。当時の朝鮮は事大主義で、中国の文明を非常に尊重していましたから、このハングルも中国の文明、中国の思想を最大限に活用してできている文字なのです。ハングル文字は朝鮮半島でできた独自の文字だというのはよく強調されますが、そこを支えている理論や思想がどこから来ているのかを詳しく述べる人はあまりいません。ですが、これを丹念に調べていくと、実は言語理論は中国の音韻学、思想は朱子学に根ざしていると言うことができます。この話はまたもう少し時間を置いて見ていきたいと思います。

4 章に入ります。このようにしてできたハングルが実際にどのように用いられていたのかを見ていきます。15 世紀にハングルができてただちに国家事業としてハングル文献がいろいろ刊行されます。一番多いのは仏教の文献ですね。李氏朝鮮の国教は儒教で、仏教は弾圧されますが、李氏朝鮮の 1 つ前の高麗は仏教の王朝でした。それからまだ 100 年も経っていない時期なので、まだまだ仏教が朝鮮半島の中では隆盛だった時期です。王族の中でも仏教徒がいたので、仏教関係の本は非常にたくさん作られます。お経の翻訳書がたくさん刊行されたりしていました。それから教化書が刊行されていました。教化書とは民衆を儒教的に教え導く本ですね。この仏教書と儒学関係の本が多く出版されています。それから韻書（漢字の発音書）も結構たくさん出ています。これは実はこのハングルの成立と深く関わっていて、ハングルの非常に深い部分で韻書が関わっています。

いくつかの文献を紹介してみます。【スライド投影】まず釈譜詳節、釈迦の伝記です。ハングル文字は 1443 年に完成して 1446 年に解例本が出版されましたが、そのすぐ 1 年後に出版された本です。ですからハングル文献としては最初の文献のひとつです。金属活字本です。朝鮮半島は活字が非常に発達していた国のひとつで、この当時は金属活字が既に実用化されていました。銅活字です。漢字もハングルも活字で作られています。漢字に比べてハングルがあたかも機械で作られたような文字でちょっと対照的です。この漢字の下に小さくハングルが書かれていますが、これは漢字の読みです。当時の文献はこのようにして全て漢字に丁寧な読みが記されているんですね。なぜこのようにして 1 つ 1 つ漢字の読みを全部ふっているのかも、実は理由があります。

次の文献は月印千江之曲、これも同じく 1447 年に出版された金属活字本で、釈迦を称える歌集です。釈譜詳節と違うのは、ハングルを主、漢字を従としている点です。

それからもう 1 つ、竜飛御天歌。これは王朝を称える歌集で、やはり 1447 年の本です。ですから 1447 年に 3 つの本が出ました。これがハングルの文献としては最初の文献 3 冊です。ハングルが書かれているのは本文、歌の部分です。次に細かい字が書いてありますが、これは全部漢文で書かれた注釈です。当時は正式な書記手段は全て漢文だったので、このようにして漢文で書くわけですね。そして最後に歌の漢訳が記されています。このようにしてハングルという文字ができて早々に文献が作られています。

この当時はいわゆる諺解本と呼ばれる漢文の翻訳本が非常に多く作られましたす。仏教のお経の翻訳本もまさにその 1 つですね。「諺解」の諺は「ことわざ」という意味ではなく、「話しことば、俗語」という意味です。ですからこの「諺解」とは「話しことばで解釈した本」という意味ですね。【スライド投影】これは正式名称「分類杜工部詩諺解」、略して「杜詩諺解」と呼ばれる本です。唐の詩人、杜甫の詩を朝鮮語訳したものです。まず漢詩の本文が書かれていて、後ろにハングルで翻訳した文が書かれています。このようにしてまず原文の漢文を掲げて、その後ろにハングルによる朝鮮語訳を掲げたものが諺解本と呼ばれるものです。この本は東大の小倉文庫に所蔵されている本で、やはり活字本です。

これは伊呂波という、日本語の学習書です。当時の朝鮮には通訳養成所があって、そこで中国語、日本語、モンゴル語などを学習していました。これを見るとひらがなが書いてあり、その発音をハングルで表記しています。このように外国語学習のためにもハングルは利用されていました。

以上はすべて出版されたハングルですが、もちろんこれは人の手によっても書かれます。ただし、李氏朝鮮の公的な筆記手段は全て漢字漢文でしたから、ハングルは公的な筆記手段としては用いられません。その代わり、支配層の婦女子や一般民衆などを中心に浸透していきます。ちょうど日本の仮名と性格が非常によく似ていますね。日本も前近代の公的な筆記手段は漢字漢文だったので、幕府や王朝の筆記手段は漢字漢文が正統で、仮名は婦女子や民衆等に広まりましたから。当時のハングルの手紙（諺簡）などが現代に残っています。それから漢字学習が盛んに行われて、その漢字学習の補助手段としてハングルなどが利用されていました。筆写されたハングルは、先ほど触れた出版されたハングルとはやはり違っ

て筆で書かれるので、その筆の柔らかさが出てきます。そういうところから書道のようなものも徐々に生まれていったりします。

ハングルは当時どのくらい普及していたのかは正確な記録がないので分かりません。ただ、19 世紀に朝鮮に入った西洋人の記述を見ると、「諺文（ハングル）というのは軽蔑されて、知識階級では書きことばとしては使用しない。が、私の観察したところでは、漢江（ソウルを流れる川）沿いに住む下層階級の男たちの大多数はこの国固有の文字が読める」という記述があります。後世の日本の植民地時代におこなわれた識字調査を見るとこの記述はあながち外れていないと思われます。

書かれたハングルの一番初期のものである五台山上院寺重創勧善文をお見せします。【スライド投影】。ハングルが 1443 年にできましたから、20 年後くらいですね。五台山上院寺重創勧善文はお寺におさめられた文です。やはり手書きで、筆で書いたハングル文字は先ほどの活字のカクカクした文字とはだいぶ見た感じも違います。漢字とも非常によくマッチしている字形ですよね。それから更に時代が下って、17 世紀くらいになると、山城日記のように、流れるような字になります。山城日記は、宮体と呼ばれる書体の一種で、続け書きをしています。二文字三文字つながっています。ひらがなも草書で連綿をしますけれども、同じようにしてハングルも続け書きをします。非常にきれいな字の形だと私は感じます。【スライド投影】それからこれは、論語の本に書き込まれたハングルですが、おそらくこれは寺子屋のようなところで勉強している人がメモ書きのようにして書いたんでしょうね。実はこの本は、私が韓国に行った時に、韓国の焼肉屋に無造作に置いてあった本を開いたらこういうのが書いてあったので、ちょっとおもしろくて私が写真を撮りました。おそらくこの本自体は 19 世紀くらいの本で、本自体は二束三文の安い本だと思います。だから焼肉屋に無造作に置いてあったと思うのですが、このような書き込みから当時の人の文字生活を知ることができます。これをよく見ると、ハングルだけじゃなくて漢字・口訣字を織り交ぜながらメモをとっています。18 世紀 19 世紀になっても口訣という文字はまだ残っていて、それと同時にハングルも使って朝鮮語を表していたようです。焼肉屋の店主はたぶんそんなことを知らずに安いから本を買ってきたんでしょうけれども、私から見たらこれは非常におもしろい本です。このようにしてハングルが李氏朝鮮を通して民衆の間で用いられてきました。

民族の文字として正式に使われるようになるのは 20 世紀に入ってからです。

今は韓国と北朝鮮に分かれて、南北ともほぼハングルのみを使い、漢字はほとんど使いません。最近の韓国人は、漢字は辛うじて読めるくらいで、あまり書けません。書ける人は非常に少なくて、ひどい人になると自分の名前すら漢字で書けない人もいます。それだけ現代の朝鮮半島では漢字離れが進んでいます。

それでは5章に行きます。ハングルの誕生にまつわるいくつかの疑問点をこれから簡単に見ていきたいと思います。このハングルは朝鮮語を表記するための文字です。解例本には「わが朝鮮国の語音は中国とは違っていて、漢字と互いに通じないので、漢字の読み書きができない民は、言いたいことがあってもその心うちを書き表すことができない者が多い。私・世宗はこれを憐れに思って、新しく二十八字を作った。人々が簡単に習い、日々用いるのに便利なようにさせたい」という世宗の言葉が書かれています。これだけを読むと、ハングルは朝鮮語を表記するために作られた専用の文字だと思われますが、解例本をよく読んでいくと、何かおかしいことに気づきます。

まず1点目。訓民正音の解例本は、ハングル文字の音を示す際に、朝鮮語の単語で示すのではなくて、漢字の発音で示しています。

2点目は、その漢字の発音が実際の発音ではなくて、人工的に作りだした、この世に存在しない漢字の発音を使っている点。

そして3点目に、朝鮮語を表記するはずの文字なのに、朝鮮語の表記に不要な字があったり、逆に朝鮮語に存在する音を表記する字がなかったりすることがあります。

ハングルが純粋に朝鮮語を表記するためだけの文字であれば、こういうことは起こらないはずです。いったいこれはなぜか。

結論から言うと、どうやらハングルは一義的に朝鮮語音を表記するための文字として作られたのではなく、漢字音を表記するために作られた文字のようである、というのが見えてきます。

なぜ朝鮮語音でなくて漢字音なのか。ここが先ほど出てきた、李氏朝鮮の国是である朱子学と関係があります。朱子学では、言語音、音楽の音階など、広く「音」というものが正しく整うことが、すなわち正しく整った理想政治につながるという考え方がありました。現代の我々からすると荒唐無稽な話ですが、儒学の中ではそう考えたのです。子音を説明するのに五行と結びつけて説明していましたが、五行で説明すると同時に音階とも結びつけて説明していましたよね。なぜあそこ

で音階が出てくるのかは実はここ、朱子学とつながっているからです。乱れた言葉の発音はよくない。乱れた発音を正しい発音に整備するのが必要である。そうすることによって、自分たちの理想とする正しい政治ができ、そうするためには正しい音を示すための文字が必要である。だからハングルを作ったということです。また、ハングルに反対した崔万理が世宗に出した反対文に対して、世宗が反論をします。その反論の中で、この崔万理に向かって、「お前は漢字の音の種類を知っているのか」、「私が韻書の誤りを正さなかったら一体誰が正すのか」ということを言っています。ハングル文字に関して世宗が漢字の音を云々しているのは、ハングルと漢字音が深い関係にあることを物語っています。したがって、「乱れた言葉を正す」というのは、どうやら「乱れた漢字音を正す」ことだったようなんですね。

1443 年 12 月にハングルが完成しますが、その 3 ヶ月後に最初のハングル事業として古今韻会挙要をハングルで注音します。古今韻会挙要は中国の韻書ですから、全部漢字で書いてあります。これにハングルで漢字の発音を示す作業を王が命じます。ハングル事業の一番最初がこれなんですね。ですから、ハングルで漢字音を表記するのがいかに重要であったのかが分かります。この事業は3年後に、人工漢字音の一覧である東国正韻を作ることで完成します。世宗は当時の朝鮮語の漢字音が、古い中国語音とは異なっているのを知っていて、それが誤った音であると考えました。この誤った朝鮮語の漢字の発音をより正しい発音、つまり古い中国語音に似せて直さないといけないと考え、そのようにして音が正されれば、政治も正しい方向に向かうと考えていたのです。それで漢字の発音を人工的に改める本である東国正韻を作ったんですね。15 世紀のほとんどのハングル文献は全ての漢字にハングルによる発音表記なされています。そこで示されている発音は実際の当時の 15 世紀の発音ではなく、東国正韻で示された人工的な発音です。ハングルができてから30年くらいの間、人工的な漢字の発音をルビでふります。それだけ漢字音を直すことを真剣に考えていたようです。この世の発音でないので、この通りに発音しろと言っても無理ですよね。この試みは失敗に帰すわけですが、とにかくこのようにして世宗は漢字の発音を何とか直そうとしました。

また、ハングルは字のパーツを集めて 1 文字にします。1 文字は 1 音節です。ローマ字のように字を 1 個 1 個横に並べるのではなくて、音節単位で字母を集めて 1 文字とします。何でわざわざこういうふうに 2 段階方式で文字を作っているのかというのも不思議です。別に音を表すだけだったら、横に並べるだけで全然

問題はないはずです。これもやはり漢字の発音と非常に深い関係があります。漢字は 1 文字が 1 音節です。ですから、漢字音を表記するためには漢字に合わせてハングルも 1 文字を 1 音節にしたほうが、都合がいいわけです。ハングルがいかに漢字と深く関わっているかが、こういうのを見ると分かります。

とはいえ、世宗の言葉にあったとおり、漢字の読み書きができない民は言いたいことがあってもその心うちを表せない、だからその民の便宜のためにこの文字を作った、と書いてあります。ですから、ハングルがあくまで一義的に漢字音の表記のために作られた文字であったとは言え、このハングル文字が朝鮮語を表記するための文字であったことは紛れもない事実です。しかしながら、中世の朝鮮の一般民衆は、現代人のように日常生活で文字を読み書きすることはありませんでしたから、現代人のような文字生活を念頭に置いてこの文字が作られたのではないのは確かです。そうすると、解例本にもある「民が(文字で)自分の言いたいことがあっても書き表せない」という状況は、いったいどのような状況でしょうか。

ここで注目されるのが、崔万理のハングルに反対する上疏文です。上疏文の中で、獄中調書の話が出てきます。獄中の調書は吏読を使っていましたが、どうやら世宗は調書を吏読で書かずにハングルで書こうと考えたようです。一般の民衆は漢字を読み書きができなかったので、獄中調書を吏読つまり漢字で書くと、役人が勝手に罪をでっち上げる可能性があると考えました。これをハングルに代えて、民にもハングルを学ばせ、獄中調書をハングルで書いて民が読めるようにすれば、濡れ衣を着せられることがなくなるというのです。訓民正音解例本の鄭麟趾後序にも同じく吏読の話が出てきます。ハングルが作られた直後から賛成の臣下も反対の臣下も吏読の話をしているんですね。ですからこのハングルができた時点でどうやらこの吏読に代えてハングルを使おうという意図が世宗の中にあったようです。

このように考えてみると、ハングルは今では朝鮮語を表す文字として作られたと簡単に言いますが、細かく見ていくと実はそう単純なものではなくて、いろいろな時代的な背景、思想的な背景があったことが分かります。当時の朝鮮は中国を中心とする事大主義、漢字文化圏の中にあったわけですから、その中国文化、漢字文化に依拠し、それを全面的に利用して、その上にハングルを作り上げるのは、ある意味当然のことなのかもしれませんね。

私の話はこれで終わります。参考までにですが、平凡社の東洋文庫から私が訓民正音の解例本の飜訳を出しています。原文、漢文訓読、そして現代日本語訳をつけました。後ろには原本の写真の図版が全部入っていますので、もし興味がある方がいらっしゃいましたら是非ご覧いただければと思います。それから、インターネットでも訓民正音を見ることができます。私のホームページの中に入ると訓民正音の解例本を全文掲載しています。本の方がより詳しく書いてあって、ホームページの方は簡単にしか書いていませんが。そしてもう1つ、朝鮮語のサイトですが、デジタルハングル博物館というサイトがあります。これは韓国の国立国語院が運営しているサイトで、各種のハングルの古文献が非常にきれいな写真資料で閲覧できます。もし興味がおありでしたら、実際にカラーの図版をご覧になるのも楽しいかもしれません。

ではそろそろ時間になりました。本日はありがとうございました。（完）

コラム †　　ハングルをこよなく愛する韓国の人々

仁寺洞（インサドン）のスターバックス

…・＊ ―――――――――――――――――――――――――― ＊・…

ある１人の才知ある国王により民族の文字が生まれ、そのように人為的に誕生した文字が現代にまで生き延び広く用いられているハングル。韓国人たちはハングルのそのような来歴をよく知っており、それだけこの文字に対する愛着と誇りも強く持っています。そしてハングルを作った国王である世宗は１万ウォン札に描かれ、国民の誰からも尊敬される朝鮮随一の名君として知られており、おそらく幼稚園児ですら知っているのではないでしょうか。韓国の首都ソウルの目抜き通りには、ハングル創製の書『訓民正音』を片手に座る世宗の銅像があります。

ソウルの繁華街の街並みは、東京の街並みとよく似ています。繁華街という場所自体、国によって大差ない雰囲気なのかもしれませんが、隣国どうしであり人の姿もよく似ている韓国の街を歩いていると、日本にいるかのような錯覚に陥ることがあります。しかし、建物の看板に書かれているハングルを見て韓国だとハ

ッと気づかされます。韓国は同じ漢字文化圏でありながら日常生活で漢字をほぼまったく用いません。したがって街なかで見かける建物の看板もハングルのオンパレードです（英語の看板が多いのは日本も韓国も同じですが…）。

ソウルの旧市街に仁寺洞（インサドン）という街があります。伝統工芸など韓国の伝統的な文物を扱う店が軒を連ねる情緒ある街です。その一角に喫茶店のスターバックスがあります。伝統的な雰囲気の街の中にアメリカの象徴のような店があるのが不思議なのですが、仁寺洞のこのスターバックスはそんじょそこらのスターバックスとは違います。看板が英語ではなくハングルで書かれているのです。伝統的な街・仁寺洞の雰囲気を損ねてはいけないということで、看板をハングルにしたのだと思いますが、世界広しといえども英語の看板がかかっていないスターバックスの店舗もそうそう多くはないのではないでしょうか。

ハングルを知るための3冊

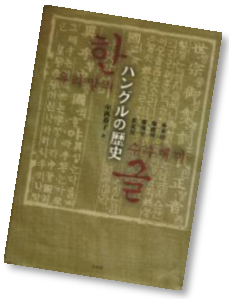
・＊・…‡…・＊・＊・…‡…・＊・

趙義成訳注(2010)『訓民正音』東洋文庫 800，平凡社

手前味噌で申し訳ありません。漢文で書かれた 15 世紀の文献『訓民正音』に書き下し文と現代日本語訳を附し、主に言語学と儒学に関して注釈を施した本。巻末には原本全ページの影印を載せており、この 1 冊で訓民正音がどのように作られたかを知ることができます。

…・＊ ―――――――――――――――――――――――――――― ＊・…

朴永濬・柴政坤・鄭珠里，崔炅鳳著，中西恭子訳(2007)
『ハングルの歴史』，白水社



韓国の 4 人の研究者による朝鮮文字史の概説書。朝鮮半島が漢字しか知らなかったハングル以前の文字生活の話から現代韓国の文字生活まで、14 のテーマに分けて朝鮮半島の文字生活について論じています。

…・＊ ―――――――――――――――――――――――――――― ＊・…

三ツ井崇(2010)『朝鮮植民地支配と言語』，明石書店

朝鮮が日本の植民地だった時代には、「官」であり「主」であった朝鮮総督府と、「民」であり「従」であった朝鮮人の双方がそれぞれ言語規範の整備を行ないました。それらの様相がそれぞれどのようなものであったかを論じた 1 冊。内容的に緻密で読み応えもあります。

…・＊ ―――――――――――――――――――――――――――― ＊・…